

平成30年度 学校経営計画に対する中間報告書

		石川県立羽咋工業高等学校		
重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用や主体的・対話的で深い学びの推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした互観授業や公開授業・研究授業に取り組む。	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等を年間3回以上取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	1学期に実施した人数(教諭・講師29名) 3回以上 3人(10%) 2回 6人(21%) 1回 12人(41%) 評価：D	互観授業や公開授業・研究授業への取組は年度初めより実施してきた。1学期末では3回以上実施者が3名10%であり、前年度同期の公開授業を2回以上実施者0%と比較すると前進したことが視える。iPad等のICT機器を活用した授業や「主体的・対話的で深い学び」の授業を全教科で進めており、2学期以降は多くの教諭・講師が公開授業や研究授業を予定している。授業改善への働きかけを積極的に行い、生徒の思考力・表現力・コミュニケーション力の育成と学力向上への取組を進めていきたい。
	② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して、家庭等での自学自習する習慣を身に付けさせる。	宿題・レポート・資格取得などの自学自習について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に6月末にアンケート調査 A：33% B：51% C：16% D：0% 評価：A・B合わせて84%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて84%となり、多くの生徒が自学自習に取り組んでいるようである。資格取得を中心とした、朝・昼・夜の補習等の成果であると考えられる。しかし、家庭学習に関するアンケート結果では「ほとんどしなかった」と回答した生徒が38%おり、学習を学校の補習に依存していると考えられる。後期に多く実施される資格検定に向けた学習を柱にして、家庭での自発的な学習を習慣づけるように働きかけ、学力向上につなげたい。
	③ 全教員の「お薦めの本」を紹介し、昼食時の「出前図書」、「読書週間」などの読書運動を全校的に行い、読書の習慣を身に付けさせる。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない	生徒対象に7月にアンケート調査 A：22% B：22% C：23% D：33% A・Bあわせて44%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて44%であり、前年度同期の52%と比較すると8%減となっているが、実際には入館者数・貸出冊数ともに前年度よりも増加している。授業で利用する回数が減少したためにこのような結果となったと考える。「読書週間」や各教科とも連携をとりながら、生徒の図書館利用促進及び書籍の貸出し数の更なる増加に向け、今後も継続的に取組を行いたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満	8月末の資格・検定試験合格者数を検証 8月末現在では344人 B評価(700人)に対する達成率49%	8月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は344人となり、前年度同期より42人減で判定基準であるB評価(700人以上)に対する現時点での達成率は49%であった。今年度より土曜授業を廃止し補習授業を行ってきたが、成果に結びつかなかった。昨年度に引き続き「資格・検定取得のすすめ」を利用し、担任と工業科が連携して受験奨励及び補習充実等により目標を達成するよう努力したい。
	⑤ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満	前期(7月)の申請者数を検証 前期認定者数45人 B評価(65人)に対する達成率69%	前期の集計では、認定者合計は45人(ゴールド30人、シルバー15人)となり、前期認定者数としては、前年度同期の約1.4倍となった。判定基準であるB評価(65人)に対する現時点での達成率は69%となった。2学期は資格・検定の受験機会も多く、7月にブロンズの申請者も45名おり、シルバーやゴールドの申請ができるように生徒への働きかけと補習等の充実により認定者数を増加させたい。さらに、ゴールド特別表彰者が多数できるように、難易度の高い資格・検定についても受験の奨励や補習等の充実を図っていきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	生徒対象に7月にアンケート調査 A：51% B：47% C：2% D：0% 評価：A・Bあわせて98%	生徒対象のアンケート結果は、A・B合わせて98%となり、判定基準をクリアしている。前年度と同様に非常に高い結果となった。求人件数も昨年度以上が見込まれ、今年度も2・3年生の就職希望者の割合は非常に高い。10月には2年生のインターンシップも控えており、意識はより高まると予想される。2学期末には「地元企業を知る会」、3学期末には「先輩と語る会」や「地元企業見学会」も計画している。今後も時期に見合った進路指導を行い、生徒の進路意識を高めていきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	3年生を対象に7月にアンケート調査 A：31% B：61% C：8% D：0% 評価：A・Bあわせて92%	生徒対象のアンケート結果は、A・B合わせて92%となり、判定基準をクリアしている。前年度同期から4%減となったものの高い結果となっている。朝学習においても進路希望に応じた学習に取り組んでおり、習慣化している。9月中旬より就職試験が始まり、進学希望者への対応も始まる。3年生の就職・進学の実現に向けて、面接指導等を全教員の協力の下で取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		1回目の就職試験における内定率が A 90% B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		・中間の結果でしっかり目標を達成しているものはあるが、中間の目標が各項目によって違う点が目立つ。取組によっては、中間評価までの目標・年度末までの目標を明示した方が評価しやすい。 ・図書館利用回数について、タブレット等があると簡単にインターネットで調べることができて図書館利用回数を増やすことは難しいと感じる。インターネットでニュース等を見ているので新聞を取らない家庭もある。そんな時代になってきているが、読書で活字を読むことを習慣づける事が大事だと思う。 ・資格指導の土曜授業を廃止して、代わって補習で補っているが、成果が上がっていない理由は、補習時間数ではなくて意欲の問題だと思う。企業の入社試験でも、資格の数によって評価している他、試験結果で差がない時には資格の数で有利になる部分もある。 ・将来的な生徒達の目標にする意味で、電気科を卒業すると電験三種や電気工事士は卒業後に試験を免除される「認定校制度」があることを、しっかり説明して日々の学習意欲を高めて欲しい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				・来年度は、中間評価の時点での達成目標も示すようにしたい。 ・論理的思考力や、会話したり書いたりする力を養うには、やはり活字を読まないで難しい。調べるだけがICTの活用ではないので、活字を読む指導も含めて指導していきたい。 ・資格取得に対するモチベーションを高めるために、資格の必要性等の講演会をすることにしており、多くの資格の受験を進めていきたい。 ・電気科と建設造形科建築コースの「認定校制度」については、これまでも生徒に説明しているが、さらにしっかりと説明して学習意欲向上に繋げたい。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高めいじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、高体連表彰取組賞を獲得する。	県高校総体の総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	県総体6月末集計結果 75.5点 評価:A	6月末までの県高校総体の結果、総合得点は75.5点で16位である。判定基準のA評価を達成している。この結果は、ヨット部男女の優勝、弓道部男子団体のベスト4、ソフトテニス部男子団体、剣道部男子団体、卓球部男子団体、バスケットボール部のベスト8が大きく得点を獲得している。昨年度同期の総合得点は70.0点であり、今年は更に得点が上回っており、ラグビー部の最終結果を待つとともに、3年連続で取組賞の獲得を期待したい。
	② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 41% B: 50% C: 9% D: 0% 評価:A・B合わせて91%	文化部加入者対象アンケートの結果、A・B合わせて91%と前年度同期とほぼ同数の高い結果となった。今年度は囲碁・将棋部の全国高校総文への出場、美術・デザイン部の全国高校総文への作品の出品と活躍が目立っている。9月末に行われる文化祭や高文連各種行事等の場を活かして、より成果が得られるように取り組んでいきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 38% B: 57% C: 4% D: 1% 評価:A・B合わせて95%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて95%と前年度同期とほぼ同数の高い結果となった。2学期以降も多くの生徒会行事が予定されており、9月末の羽工祭では全校生徒が満足できるものとなるよう、生徒会執行部を中心しっかりと取り組んでいきたい。
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけを増やし、生徒との相互理解を深めるとともに、規範意識を向上させる。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 64% B: 35% C: 1% D: 0% 評価:A・B合わせて99%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて99%と非常に高い結果となり、判定基準を大きく上回った。今年度は規範意識向上の取組として、規範意識週間における読み聞かせや発表のほか、自転車の施錠、校内におけるスマホ・携帯電話の使用禁止について指導徹底を図った。様々な取組の中で、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。今後も生徒の意識向上に向けて日々の取組を進めていきたい。
	⑤ 保健日より集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 40% B: 52% C: 7% D: 1% 評価:A・B合わせて92%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて92%と前年度同期と同数の高い結果となった。今年度は暑い日が多く熱中症に対する注意喚起を日頃から行っていたことも高い数字となった要因と考えられる。2学期以降についても残暑の厳しい時期も考えられ、また冬季にはインフルエンザの流行も予想されるので、日頃からの健康管理について更なる意識の向上に取り組んでいきたい。
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 56% B: 40% C: 4% D: 0% 評価:A・B合わせて96%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて96%と前年度同期とほぼ同数の高い結果となった。例年行っている「一日一善運動」や「ボランティア清掃」、「地域共同避難訓練」への生徒の取り組み様子からも生徒が社会貢献の大切さを理解していることが窺える。今後は、日々の生活の中で各自が主体的に行動できる力を培い、社会に貢献できる生徒を育てていきたい。
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 44% B: 47% C: 8% D: 1% 評価:A・B合わせて91%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて91%と前年度同期とほぼ同数の高い結果となった。今後も保健指導課の清掃活動・生徒会課の一日一善運動・生徒指導課の規範意識向上の取組等とも関連させながら、環境保全とともに環境美化について生徒の意識高揚と実践力を培っていきたい。
4 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務見直しの協議成果として A 改善を十分行えた。 B 改善のある程度行えた。 C 改善をあまり行えなかった。 D 改善を行えなかった。	職員対象に 7月にアンケート調査 A: 8% B: 52% C: 37% D: 3% 評価:A・B合わせて60%	職員対象のアンケートの結果、A・B合わせて60%が改善を行えたと回答した。働き方改革を進めていく上で、業務の見直しや作業の効率化を図ることは必要である。今後も各分掌内において協議をするとともに、多忙化改善に向けた取組を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価				<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革について、部活動指導をしている先生は大変だと思うが、部活動の休日を設けたために、全体の競技レベルが下がることが心配になる。また、本来は教員を増やすべきだが、例えば、調査や内容を作ることは先生方で行って、集計作業は事務的だから事務員にやってもらおうと思う。生徒の指導以外の仕事が増えていると感じている。 地域ボランティア活動の一環の第8回地域共同避難訓練に参加した。慣れも大分出てきた中で、北海道の地震を見ると、地域の方々が安心して工業高校に避難できることが分かるので、重要な事である。その中で、日頃の挨拶運動とかで地域の住民と生徒が交流するなどして繋がりを持つことが大切なので、今後も継続して欲しい。 毎年1月の課題研究公開発表会について、英語の説明を入れたりなど色々工夫しているが、自己評価等をする必要もあると思う。中学生や県の関係者、各工業高校の校長先生も来ているので、代表者の感想や会場からの質問に対する回答もしっかり指導して欲しい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革では、適切に部活動の休業日を設ける中で、質を高め競技力を向上させる努力を今後も続けていきたい。 アンケートの集計など、役割分担できることは行っていきたい。 今後も、生徒に地域の方々とのコミュニケーションを大切にすることや、地域の方の言葉を伝えて、地域との繋がりの意識を高めていきたい。 課題研究公開発表会について、今後は新学習指導要領で、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められており、課題の追究、解決を行う探究の過程がしっかり見えるようにし、工夫が分かるような形での発表会にしたいと思う。